

「こぼちゃん作文」の書き方

「こぼちゃん作文」は4コママンガを読み、その話の筋を書くだけではなく、マンガに書かれていないことも言語化する作文だ。

次の3点の力を養うことをねらいとする。

- 文章力（簡潔に的確に書く。文章構成を工夫して書く。時間内に書く。）
- 洞察力（マンガに描かれていない「おもしろさ」を洞察する。）
- 表現力（正しく原稿用紙を使う。文字を丁寧に書く。漢字を適切に使う。）

書き方 マンガを右側ページに貼り、左側のページから書き出すこと。

詳しく細かく書くのではなく、どんなことが描かれてあるのかを書く。
目安はだいたい¹⁶⁰190字以内で書く。あまり長くなりたくないこと。

はじめの1文はマンガの設定をできるだけ短く単純に書く。

直接話を間接話法で書く。言った言葉をそのまま書くのではなく、言った内容をまとめて書く。

1文に二つのこと。だからだと文を長くさせない。

体言止めにしない。×「みんなに問題を出した先生。」「先生はみんなに問題を出した。」マンガの表情から心情を読みとって理由や原

因と結びつけて説明する。
行動や表情の変化があったら、その理由や原因（オチ）を「実は」「なぜなら」のどちらかの言葉を使い説明する。

の部分で改行する。（全体で2段落）
文章の最後でオチやおもしろさを説明して締めくくる。その後をだらだら続けない。

書き上げたら必ず読み直し、推敲する。誤字・脱字、書き忘れ、原稿用紙使用方法の間違いが5力所以上で再提出。

感想や意見は必要ない。マンガそのものを文字で描写する。

以上のことが守られていない場合、「再提出」となり、全文書き直しとなる。

③ 小学校の図工の時間、先生は不思議な形の粘土の塊をみんなに見せた。そして④のように細工すれば猫になるのかという問題を出した。子どもたちは、⑤ヒゲを付けたりしっぽを付けたりすればよいと提案した。校長先生は廊下で見ていて授業内

容に⑥感心してほえんでいた。

⑦ しかし校長先生は⑧ずっこけてしまった。⑨なぜなら⑩図工の先生は「ネコ」というタイトルを付けなければならないと教えたからだ。⑪（180字）